

# 附属機関(審議会)等 報告書

平成 31 年 4 月 11 日

芦屋市自治会連合会会長 様

報告者氏名 納谷 周吾



審議会等の 名 称	平成 30 年度第 1 回芦屋市社会福祉審議会地域福祉部会 (任期：平成 30 年 6 月 25 日 ~ 平成 32 年 3 月 31 日)		
開催日時	平成 31 年 3 月 22 日 (金) 午後 3 時 00 分 ~ 5 時 00 分		
出席者氏名	委員 14 名 (17 名中)、社協 2 名、市老連 1 名、生協コープこうべ 1 名 事務局：福祉部地域福祉課小川長以下 6 名		
開催場所	市役所分庁舎 2 階会議室	交通費	円
〔 主な内容 〕			
目的：平成 30 年度第 3 次芦屋市地域福祉計画の評価対象について			
議事： ①第 3 次芦屋市地域福祉計画の推進状況・行政の取組み、社協の取組みが発表された。 内容は多岐にわたるが当日は主要項目を抜粋する形で行われた。 これらに対する評価について出席者間で意見を交わした。 ②次いで同計画推進状況について関係団体である市民正児童委員協議会、芦老連、 地域アクションプログラム推進協議会、生協コープこうべが発表した。			
所見： ・資料が約 10 日前に事前配布された。かなり時間を割いて読み込んで出席したので、 担当課の説明についてはかなり理解できた。 ・しかし、当日配布資料も多く、それらを合わせて読解ながら会議に参加するのは大変。 ・「行政の評価」については非常に分かりづらいと感じた。 「目的」「目標」が数値化しにくい所為かプロセス評価になりがちで、このような 評価が良いのかよくないのか疑問と感じた。 ・またプロセス評価であっても、「原因」追究が出来ておらず、このまま進めても 「対策」が抽象的となり、結局何のための活動だったか？が不明瞭になる恐れを感じた。 ・行政でよく使用する「地域」について自治会の立場から意見を述べたが、行政としては 「地域」とは便利な言葉であり不具合も分かっているが曖昧なまま進めている。 自治会加入率は平均すれば 60%前後。しかも実際は高齢化した役員で何とか稼働させ ている実態をどのように評価しているのかも曖昧。			

記のとおり、報告します。

〈確認者〉 芦屋市自治会連合会 会長・助 野 光 男

